

**重大な災害や事故には至らないものの、ヒヤリとしたり、ハットとしたりすること**

重大な事故が発生した際には、その前に多くのヒヤリ・ハットが潜んでいるのです。

そこで、Kの会だより（第71号夏号）で記載させていただいた、

**KYT（危険予知訓練）**をベースに、経験したヒヤリ・ハットの情報を公開させて、社員みんなで共有することで重大な労働災害の発生を未然に防止し、職場の安全と健康を先取りする活動を行いましょう。

**手 川 頁**

**STEP1 情報収集**

ヒヤリとしたり、ハットとしたことを報告書等の書面で提出

**STEP2 情報の整理・分類等**

項目ごとに分類し、自社で多いヒヤリ・ハットを分析

**STEP3 原因の分析**

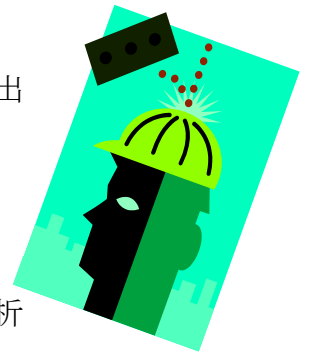
なぜこのようなことが起こったのか、根本的な原因を分析

**STEP4 改善及び対策の立案と実行**

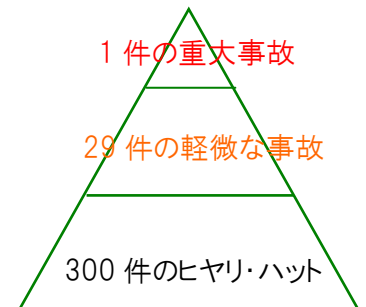
原因に対し、改善及び対策を考え実行

**STEP5 情報の公開**

掲示板等を活用して社員全員で共有



**ハインリッヒの法則**



1対29対300の法則とも呼ぶ。1件の重大な事故の背景には、29件の軽微な事故と300件の、事故にはならなかったが、ヒヤリとしたりハットとしたりした事例が存在するという法則

**【ヒヤリ・ハット報告書の例】**

いつ	平成〇〇年〇〇月〇〇日
どこで	現場
何をしているとき	トラックの荷台から積み下ろし作業をしているとき
ヒヤリ・ハットの状況	サイドエッジに足をかけて作業をしていたため滑って転倒しそうになった
改善及び対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業台を準備し、足元が安全な状態で作業をする</li> <li>安全帽を着用する</li> </ul>



**ヒヤリのうちに対策を！！**

「ヒヤリ・ハット」事例を数多く集め、それを分析することによって職場の問題点が浮き彫りになります。それらを一つ一つ解決していくことによって「危険の防止」が図られ、安全な職場が確立されていくのです。